

1. 件名：福島第一原子力発電所における G5 エリアフランジ型タンクの撤去に係る
面談

2. 日時：令和2年7月15日（水）10時00分～10時35分

3. 場所：原子力規制庁 18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

伊藤係長、高木技術参与

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当4名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

● 東京電力ホールディングス株式会社から、G5 エリアフランジ型タンクの撤去について、以下の説明があった。

✓ G5 エリアフランジ型タンクの1基目の解体において、作業前にタンク内のダスト濃度が作業管理値以下であって内面に有意な汚染が検出されない場合の作業者の装備及び作業中の作業環境モニタリングの方法の妥当性を検証することとしていた。今回、1基目の作業結果がまとまったので報告する。

✓ タンク解体作業時に、作業前に確認ができなかったタンク床面等の表面汚染密度を測定したところ、全て基準値（4Bq/cm²）未満であり、遊離性の汚染は確認されなかった。

✓ タンク解体作業中の空気中放射性物質濃度を測定したところ、全ての測定において作業管理基準値（ 5×10^{-5} Bq/cm³）未満であった。

✓ 以上のことから、2基目以降のタンク解体作業は、フランジ型タンク解体時の汚染対策要否判断フローの「遊離性汚染なし」の欄に記載している対策を講じた上で実施していく。

● 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認した。

6. その他

資料：G5 エリアフランジ型タンク撤去に関する報告